第２学年　音楽科学習指導案

令和３年　１０月４日（月）　第２校時

羽ノ浦小学校　２年２組　３２名

指 導 者　　　　折野　博美

１　題　材　　汽車が走るようすを　音楽で　あらわそう

２　題材の目標

（１）他のパートの音も聴きながら，思い浮かべる情景を表現する。

（２）反復や音色，速度の変化をとらえて，汽車の様子や景色を想像しながら聴くとともに，思い浮かべる情景を表す歌い方について思いや意図をもつ。

（３）反復や音色，速度の変化に関心をもち，進んで学習に取り組む。

３　題材について

（１）　児童の実態

本学級の児童は，穏やかで何事にも一生懸命取り組むことができる。また，音楽の授業では，音楽のよさを素直に受け止め，楽しんで活動している。しかし，コロナ禍により，大きな声量で歌ったり鍵盤ハーモニカを吹いたりすることを控えており，思うような活動ができていない。そんな中，マスクをして小さい声で口ずさんだり，立ち位置や歌う人数を考えたりと，環境に配慮しながら少しずつ歌唱活動を進めている。そして，ボディパーカッションやリズム打ち，言葉のリズム遊びなど，リズムの面白さを味わう機会を多く取り入れている。

鑑賞の学習では，音楽のよさや秘密を探るために，音楽を形づくっている要素（音楽的要素）を基に，様々な活動や手立てを取り入れながら聴き取ったり感じ取ったりしている。また，楽曲を聴いて感じたことを理由を踏まえて自分の言葉で具体的に伝えるように働きかけている。そのことで，児童は，音楽と積極的に関わり，相手の思いに共感したり違ったとらえ方を知ったりし，音楽を聴く力が身に付いてきたと感じる。しかし，学習後に，楽曲のよさを音楽的要素と関連させて具体的に書くことに戸惑いが見られる。児童が「この曲のこの部分が好き」と明確に意識して説明できるよう，授業の進め方，めあてや振り返り方法などを工夫してよりよい学習へとつなげていきたい。

（２）　教材について

表現教材「汽車は走る」

鑑賞教材「しゅっぱつ」

本教材は，リズムや旋律が反復する面白さを感じ取りやすく，その要素から情景を思い浮かべやすい教材である。「汽車は走る」では，親しみやすい旋律やリズムが繰り返されている。汽車がどんな場所をどんな様子で走っているのか想像し，自ら汽車になって速度などを変えながら歌うことができる。また，木琴や鍵盤ハーモニカ，太鼓などによって繰り返すリズムを演奏し，速度の変化を班や学級で共有することも可能である。「しゅっぱつ」で学んだ反復，音色や速度の変化を生かして学習を深めていくことで，より豊かな表現につながっていくと考える。

「しゅっぱつ」では，リズムの反復や楽器の音色，速度の変化に着目しながら聴くことによって，情景を思い浮かべることができる。冒頭は汽車の出発を告げるホルンの音色から始まり，汽車が線路を走る様子を弦楽器と打楽器の伴奏が描写し，トランペットの音色が汽笛を模倣する。その後，色々な楽器に引き継がれながら音楽を盛り上げていく。そして，再び最初の旋律が現れ，速度がだんだん落ちていき力強く終わることで，無事駅に到着したことを表している。聴き取ったことによって想像したことや感じたことを自分たちの言葉で伝え合いながら，描写的な音楽の面白さに迫ることができる教材である。

（３）　指導に当たって

本題材では，音楽が表している情景を想像しながら聴いたり，曲に合った表現を工夫したりすることに楽しみがある。「しゅっぱつ」は，汽笛や車輪の音を表す音色や反復するリズムに耳を傾けることで，汽車を表す音楽であることが分かる。また，最後の速度の変化で，駅に到着する様子も想像することができる。曲を聴いてどのような汽車の様子や景色なのかを考え，言葉や体の動きなどで表すことで，互いの感じ取り方を共有させたい。そして，「曲の好きなところについて紹介しよう」というめあてを提示し，振り返りで自分の印象に残った部分を具体的に思い浮かべるよう支援する。振り返りの際には，音楽的要素と関連付けて好きなところを述べるために，「反復」「音色」「速度」について何度も触れるようにしたい。

「汽車は走る」は，汽車が走る情景を自由に思い描くことができる。山を登っているからゆったりとした速度で力強く歌いたいなど，児童の思いを十分に引き出しながら，想像したことが歌や演奏につながる面白さを感じ取るように働きかける。「しゅっぱつ」と並行して学習を進めることで，速度の変化を曲に取り入れるなどして，鑑賞で学んだことを表現に生かせるようにしたい。

４　題材の評価規準

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| 　基礎的な知識及び技能 | 　思考力，判断力，表現力等 |  主体的に学習に取り組む態度 |
| ①曲想と音楽の構造との関わりについて気付いている。②思いに合った表現をするために必要な，互いの歌声や伴奏を聴いて，声を合わせて歌う技能を身に付けている。 | ①リズムの反復や楽器の音色，速度の変化を聴き取り，それらの働きが生み出すよさや面白さ，美しさを感じ取りながら，聴き取ったことと感じ取ったこととの関わりについて考え，どのように表すかについて思いをもったり，曲や演奏の楽しさを見いだし，音楽を味わって聴いたりしている。（鑑賞）②曲想を感じ取って表現を工夫し，どのように歌うかについて思いをもっている。（歌唱） | ①速度などによる情景の変化を楽しみながら，主体的・協働的に歌唱及び鑑賞の学習活動に取り組もうとしている。 |

５　指導と評価の計画（本時３時間）

|  |  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- | --- |
| 次 | 時 | 教材 | ◎ねらい　○学習内容 | ◇評価規準　◆評価方法 | 要素 |
| 一次 | ① | 　　　　　　　　しゅっぱつ汽車は走る | ◎リズムの反復や楽器の音色，速度の変化をとらえ，情景を想像しながら聴く。 | 反復　音色　速度 |
| ② | ○「汽車は走る」を歌う。・汽車の様子を想像しながら○各パートを重ねて「汽車は走る」を歌う。・「ガッタンゴットン」のパートなど○汽車が走る様子を聴き取る。・規則的なリズムの反復が表す様子・各楽器の音色が表すもの・速度の変化が表す様子 | ◇主①◆活動観察，演奏聴取◇技②◆活動観察，演奏聴取◇思・判・表①◆活動観察，発言内容　ワークシート |
| ③（本時） |
| 二次 | ④ |  | ◎リズムの反復や楽器の音色，速度の変化を工夫して，想像した情景を音楽で表す。 |
| ○思い浮かべた様子を表現するために工夫して歌う。・速度の変化 | ◇知①，思・判・表②◆活動観察，演奏聴取　発言内容 |

６　本時の学習

（１）目　標　　リズムの反復や楽器の音色，速度の変化が汽車の様子を想像する手掛かりになっていることに気付き，情景を想像しながら聴く。

（２）展　開

|  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- |
| 学習活動 | ○指導上の留意点 | ◇評価規準　◆評価方法 | 要素 |
| １　曲名当てクイズをする。２　本時のめあてをつかむ。３　汽車の様子を表す手掛かりを聴き取る。４　楽曲の好きな部分を紹介する。５　本時のまとめをする。 | ○楽しく学習に取り組める雰囲気づくりをする。○その曲名だと思った理由も言うように促す。○本時のめあてを確認する。**「しゅっぱつ」の　好きなところについて　紹介しよう。**○リズムの反復や楽器の音色が何を表しているのか考えさせる。・出発を知らせるホルンの前奏・走る音を表す弦楽器と打楽器の伴奏・汽笛を表すトランペット○曲の中間部分を聴き，汽車が走る様子を感じ取らせる。○速度の変化が何を表しているのか考えさせる。・減速して止まる・到着した○心に残った汽車の様子を思い出させる。○汽車の様子と音楽的要素を関連付けて説明するように働きかける。○次回，速度を工夫した歌唱表現をするように意欲付けをする。 | ◇思・判・表①◆行動観察，発言内容◇思・判・表①◆ワークシート | 反復音色速度 |

（３）評価および指導（手立て）

|  |  |
| --- | --- |
| 「十分満足できる」と判断される具体的な状況 | ・リズムの反復や楽器の音色，速度の変化を聴き取り，その面白さを体全体で感じ取りながら，汽車が走る様子を意欲的に思い浮かべている。 |
| 「おおむね満足できる」状況を実現するための具体的な指導（手立て） | ・汽車に乗った想起や汽車が走る映像を手掛かりに，汽車が走る様子を具体的に想像するように働きかける。・速度の変化を聴き取っている友達の体の動きに注目させたり一緒に動いたりすることによって，速度の変化に気付くように支援する。 |